

用に関するものであった。問 16 では、17 名が冊子の内容にさらに付け加えることが期待される情報があると回答した。記載されたその内容は、薬物使用のほかストレスマネジメントやセックスカウンセリングに関わるものにまたがっていた。2 名以上が挙げていたのは、薬物使用に関する相談・援助機関の連絡先（3 名）を、ストレスマネジメントに関するより具体的な情報（2 名）であった。

5. 有益性

問 17 では、この冊子の有益性について 15 名が 5 段階評定の上位 2 段階のいずれかを選択していた（資料 5-4 表 5）。有益でないと回答したものは 1 名であった。

6. 活用の可能性

問 18～19 は冊子の利用に関するものであるが、PHA のみに回答を求めた問 18 では、「関係機関等で利用してほしいと思わない」との回答はなかった。PHA 以外に回答を求めた問 19 では、「勤務先機関で利用したいと思わない」と回答したのは 1 名であった（資料 5-4 表 6）。

7. 冊子に対する全般的評価

問 20 では、冊子の全般的評価について、「よかった点」と「改善が期待される点」に分けて自由記載により回答を得た（資料 5-4 表 7）。よかった点として記載されたものに多く見られたのは、ドラッグ、薬物使用について、リスクの低い方法を示すなどこれまでになく踏み込んだ情報を盛り込んだ点に対する評価であった。また、イラストなどのデザインも含めて表現の軟らかさや薬物使用に対する非審判的姿勢に対する評価もあった。一方、改善が期待される点としては、読みやすさに関する点を挙げたものが 8 件あった。また相談・治療機関等についての情報を加えるべきであるとの指摘や、薬物使用に伴うリスク低

減のための情報をさらに詳しくすることを勧める回答などがあった。

D. 考察

1. 冊子の情報量

「メンタルヘルス」と「薬物使用」に関する情報を取り上げた 1 章から 3 章については、「血液を媒体とする感染症」や「性感染症」を取り上げた 4 章および 5 章よりも、「やや少ない」「少なすぎる」との回答が多かった。ことについては、今回の調査対象が PHA および HIV 関連領域の治療・援助者であり、薬物使用等に関する情報をより強く求めていることを反映しているのではないかと考えられる。

2. 読みやすさ（理解のしやすさ・見やすさ）

冊子の「読みやすさ」は、平易な文章表記などによる情報の理解のしやすさと、レイアウトやデザイン等による視覚的な見やすさが、冊子の「読みやすさ」につながると仮定し、調査の質問項目を設定した。この点については、特にレイアウトの改善が期待される旨の指摘が、質問紙末尾の自由記載欄にも複数見られたことから、文章表記と共に一層の洗練化を図り、読みやすさの向上を図ることが必要であると確認された。

3. 掲載情報の選択と表現上の配慮

問 14 で、冊子の中に人に不快感を与えるおそれがあるとして指摘した内容は、以下のように集約された。

「薬物を使用している PHA が、薬物依存＝病気ということを受容できないのではないか」

「薬物を使用している PHA が犯罪者として扱われているように感じたり、または犯罪者として扱われることをおそれるのではないか」

「薬物を使用していない PHA が薬物使用に関する情報を与えられることに対する抵抗感をもつのではないか」

これらは、薬物使用が犯罪行為としての側面のみから理解され、使用薬物の規制状況のみが注目されがちであることによるものと考えられる。先に示された「危惧される点」の解消に向けては、薬物使用には、犯罪行為としての側面のみならず、薬物依存という疾病としての側面があることについての周知が不可欠であると考えられ、また薬物使用に対する疾病としての側面からの理解の浸透には、相当期間の取り組みの継続が求められると考えられる。

問 15 については、「肝炎の説明が長い」「同性愛者への価値観に関して受け入れがたい部分がある」以外は、全て「薬物使用」に関する指摘であった。その中で注目されたのは、「注射針・注射器の管理および取り扱い」に関する記載に対して、「付け加えるべき情報」と「注射針・注射器の洗浄法を掲載することへの疑問」が記載されていた点である。これは、薬物使用が PHA の健康に与えるリスクとその低減に関する情報に、「注射針・注射器の管理および取り扱い」に関する内容を加えるか否かという、二つの立場が示されていると見ることができよう。諸外国においては既に、HIV と薬物使用の問題を同時に視野に入れた取り組みとして、注射針・注射器交換プログラムなどの実施と共に、注射針・注射器の洗浄法に関する啓発冊子の配布などが実施されている。これらは、我が国で実施されている薬物乱用防止啓発活動のように、対象者を薬物を一度も使用したことがない者と見定めて、薬物をこれから使用しないように呼びかける啓発ではない。薬物使用の経験を問わず、「万一、薬物を使うようなことになった場合に、どのように感染リスクを低減することができるのかについての具体的方策」について、普及を図るいわゆるハームリダクシ

ョン (harm reduction) の実践である。

我が国においては、薬物問題への保健・医療問題としての対応が地方レベルにまで浸透しているとはいえ、徹底した司法関連機関の取り締まり中心処遇と「ダメゼッタイ」ベースの一般予防啓発などが対応の主流を占めている。そして、このような対応のあり方が、薬物使用に対して犯罪行為としての側面のみをクローズアップさせ、PHA か否かにかかわらず自らの薬物使用を保健・医療問題として受容することの妨げとなっているのではないかと考えられる。

今後、感染リスクの低減に向けた情報提供を図っていく上では、我が国にもハームリダクション型の実践モデルが導入されることが必要であろうと考えられる。しかし、現在の日本の状況においては、薬物使用についての保健・医療の側面からの取り組みが十分に進んでいるとはいえない。このため、「注射針・注射針の洗浄法」に関する情報の提供が先行するような形で提供されることは、薬物使用の継続が容認されるものであるかのような印象を与えかねないと危惧される。感染リスク低減のための情報の一部として提供される「注射針・注射器の洗浄法」は、薬物の使用を回避できなかった際にあくまで水際での対処法である。まず優先されるべきは、健康問題としての薬物使用の理解の促進と、薬物依存の治療・援助サービスの利用の保証であろう。

問 16 では、今回冊子の内容について、更に具体的に記載することが希望される点について挙げられたものが多かったが、中でも、複数の指摘があったのが「薬物に関する問題の相談先を載せてほしい」というものであった。これについては、本研究の初年度に予備的に実施した聞き取り調査において、HIV と薬物使用の問題に同時に対応していくためには、それに先だって知識や対応のあり方等についての研修などが不可欠であるとの指摘を

受けたことから、今回の冊子には掲載しなかった経緯がある。しかし、今後 HIV と薬物使用に関する複合的な研修プログラムを実施し、相談窓口を広げていくことが急務であると考えられる。

4. 全般に関する評価

問 17 でこの冊子の有益性について、上位 2 段階に評価した回答は 15 件であった。冊子に対する評価としては、概ね良好な者であり、調査結果を基に修正を加えた後に冊子を配布する上では、問題ない結果であると理解した。

問 20 において「よかった点」として最も多く挙げられたのは、「薬物問題について直接的かつ具体的に取り上げた」ことについてであった。これは、HIV 領域に関してのみでなく、国内において「ダメゼッタイ」以外の情報がいかに少ないかということと関連しているのではないかと推測される。つまり「万一薬物を使用した場合には、どのようなことに気をつけなければならないのか」あるいは「薬物を使用しやめようとしても自力ではやめられなくなった場合にはどうしたらいいのか、どこに相談すればいいのか」といったことについての情報が決定的に不足しているのではないかということである。HIV と薬物使用に関する複合的情報提供の検討にあたっては、薬物使用に関する保健・医療の側面からの問題理解の浸透と受け皿の整備が不可欠であると考えられる。

一方問 20 で「改善が期待される点」としてあげられたもので最も多かったのは、レイアウトや文章表現の読みにくさに関するものであった。今後、より読みやすいものを目指して検討を重ねる必要があるだろう。

E. 結論

本研究では、「HIV と薬物使用」に関する啓発のあり方について保健・医療問題の枠組

みの中で検討し、PHA を対象とした新しい形の冊子の作成を試みた。

冊子は、PHA のヘルスプロモーションをテーマとし、薬物使用について、「注射での薬物使用」と「薬物使用時の性行動」の感染リスクと共に、薬物使用そのものや性感染症等の HIV への影響に関して、非審判的 (non-judgemental) 立場を心がけて紹介した。リスク低減の具体的方策の提示として、試作版には、ハームミニマイゼーションの観点に立つ諸外国の取り組みなどを参考に、注射針・注射器の安全な使用方法と洗浄方法を掲載した。

試作版には、ハームミニマイゼーションの観点に立つ諸外国の取り組みなどを参考に、注射針・注射器の安全な使用方法と洗浄方法を掲載し、質問紙による調査を実施した。文章表記やレイアウトなどの洗練化の必要性が指摘されたが、掲載した情報の内容や表現上の配慮については、概ね肯定的な評価を得ることができた。この他、薬物使用に関連する問題の相談・援助・治療などの窓口に関する情報を求める回答が複数あったことから、これらの資源そのものや関連する情報の不足が推測された。注射針・注射器の安全な使用方法と洗浄方法に関しては、薬物を使用していない PHA の抵抗感への危惧などの、掲載への疑問も指摘されたが、先駆的かつ求められている内容であるとの評価も多く得られた。

このような調査結果を検討した結果、現段階においては、注射針・注射器の安全な使用方法と洗浄方法についての情報は、薬物依存の治療・援助に関する情報とサービス利用の機会が確保される状況において、提供されることが望ましいと判断するに至った。

今回の配布版冊子では削除することとなったが、諸外国の例からも、注射針・注射器の洗浄法などの啓発を含めたいわゆる水際対策の検討は、薬物使用そのものや薬物使用時の性行動に伴う感染リスクの低減を目指す上で、

我が国においても避けることのできない課題であるといえよう。そしてそのためにも、HIV との関連に関係なく、薬物依存に関する情報やその治療・援助の機会の拡充は急務であると考えられる。

今後は、「HIV と薬物使用」に関する情報提供の基本モデルの確立に向けて、今回の冊子に関する対象を拡大した調査の実施などによって検証していくことが必要であろう。同時に、薬物使用者を対象とする啓発のあり方についての検討も不可欠であると考えられる。さらには、啓発プログラムを年代やさまざまなコミュニティに対応する形で分化、発展させて、さらなる情報の普及を図ることや、情報の普及によって掘り起こされることが予想される「相談者」への適切な介入のあり方の検討も新たな課題として挙げられる。

参考文献

- ・Hawe, P., Degeling, D., Hall, J.,(1990) Evaluating health Promothion. MacLennan & Petty Pty Limited.
(鳩野洋子、曾根智史訳 (2003) ヘルスプロモーションの評価ー成果につながる5つのステップー 医学書院)
- ・Richard A. Rawson, (1999) Treatment for Stimulant Use Disorders. *Treatment Improvement Protocol (TIP) Series 33*. U.S. DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES. Public Health Service. Substance Abuse and Mental Health Services Administration. Center for Substance Abuse Treatment.

F. 研究発表

なし

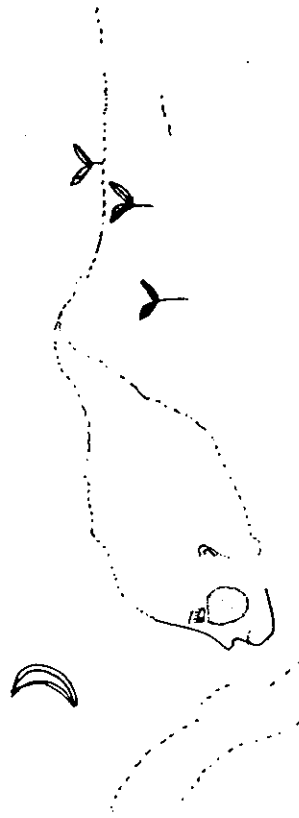
G. 知的財産権の出願・登録状況

なし



【資料 5-1】

こころとからだのヘルスポロモーション

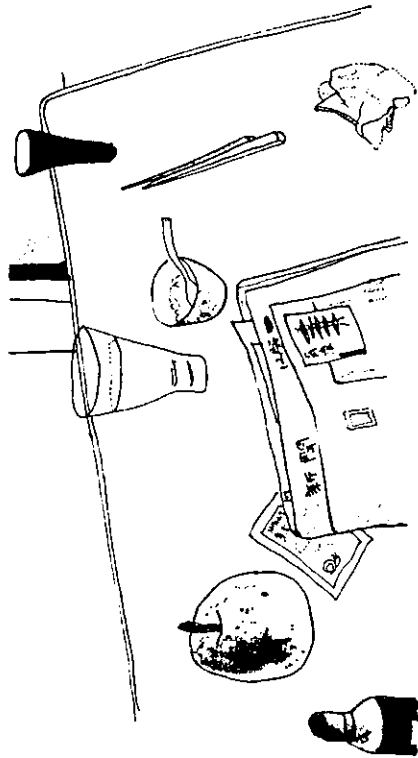


はじめに

HIV感染がわかってから、あなたはご自身の健康についてどのようなイメージをお持ちですか？

現在では、治療薬の進歩などによって、HIVと共に生きていく時間が長くなりつつあります。服薬等の生活上の変化はあるでしょうが、これからの時間を安全にまた健康的に過ごすことは十分に可能です。

HIVに感染したからといって、健康な部分が全て奪われたわけではありません。これからもご自身の健康な部分を守っていくために、新たなリスクを避けることや、もっと健康的に過ごすための情報を得て実践したりすることは、必要であると思われま



この冊子では、あなたがご自身の健康な部分を維持し、またこれからもっと増進していくためのヒントをまとめて紹介しています。あなたのために必要な部分を日々の生活に取り入れて頂ければ幸いです。



目次

1. HIV感染後のメンタルヘルス p4
2. 抗HIV剤の効果に影響する薬物使用 p7
3. 服薬管理の安定を妨げる薬物使用 p9
4. 血液を媒体とする感染症 p14
5. 性感染症とHIVに対する影響 p20

1. HIV感染後のメンタルヘルス

HIV感染後の生活においては、長期的な治療や療養にもなろう慢性的なストレスにさらされることにより、精神的に落ちこんだり、不安に駆られたりすることが少なくありません。ストレスの多い生活の中でところが疲れていくと、体内にストレスホルモン（コルチゾール）が多く分泌され、それによって体の免疫機能（病気に対する抵抗力）が障害される可能性があります。実際に、ストレスの多い生活を続けていると、HIVからADSへの進展が早まるという研究結果も報告されています。

それゆえ、HIV感染後の生活においては、身体的な健康を維持することはもちろんのこと、このころの健康を維持していくことも非常に重要だといわれています。とくに、生活上のさまざまなストレスにいかにかうまく対処していくか（ストレスマネジメント）が、感染後の生活において非常に重要な課題となります。

「精神的な落ち込み」がHIVに与える影響

一般的にストレスの多い生活を長期間続けていると、多くの人が心身に不調をきたします。そういった生活を続け、心身の不調を放置していると、場合によっては「うつ病」という病気になることがあります。

「うつ病」というこのころの病気は、気分の落ち込みや気力の減退といった精神的な症状のほか、不眠・食欲減退といった身体的な症状なども伴う病気であり、ストレスの多い生活を続けていると誰もがなりうる病気です。

このうつ病という病気になると、「このころ」だけでなく「からだ」にも様々な影響が生じます。具体的な影響の一つとして、からだの抵抗力（免疫機能）が低下するということがあげられますが、これによってHIVからADSへの進展が早められる可能性がります。

そのため、HIV感染後の生活では、このころの健康を意識的に維持していくこと、具体的にストレスの多い生活を避けることなども重要となります。

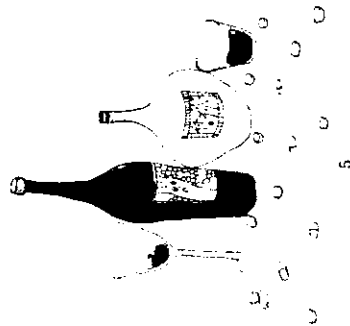
ストレスへの対処

人間は生きていく限り、日々なんらかのストレスにさらされながら生活しており、すべてのストレスを回避して生活することは事実上不可能でしょう。それゆえ、ストレスとの付き合い方、すなわち、ストレスへの効果的な対処方法を身につけていくことが重要となってきます。効果的な対処法を身につけていくことで、精神的な落ち込みやうつ状態をある程度予防することができます。



健康を害するストレスへの対処法

ストレスに対して、人間は意識的・無意識的になんらかの方法を選択して対処しています。ストレスの強い生活を続けていると、それを解消・発散するために、より「強い快感」を得ようとするとする行動傾向が強まり、それによってかえって健康を害する状況が生じることもあります。当初、不安や落ち込んだ気分を紛らわそうとしてとった行動（ストレスへの対処法）が、さらに精神的に不安定な状態を強めることもあり得ます。その例として、薬物やアルコールの乱用・依存があげられます。



薬物・アルコールの乱用・依存

ストレスを粉らわすために、薬物やアルコールを使用する人がいますが、それを習慣的に常用することによって、薬物依存症やアルコール依存症になる可能性があります。薬物やアルコールは、使えば使うほど「耐性」が形成されるため、同じ量では同じ快感が得られなくなり、結果として使用量が増大していきまます。さらに快感を求めて薬物・アルコールの大量使用を繰り返していくと、アルコール依存症や薬物依存症の状態へと進展し、結果としてそれらをコントロールして使用することができなくなります。

また、薬物依存症やアルコール依存症には高率にうつ病・うつ状態が合併します。薬物による直接的なダメージに加え、うつ病を介しての免疫力の低下などといった体へのダメージも生じ、結果的にHIVに関する状態の悪化を引き起こす可能性もあります。

健康的なライフスタイル

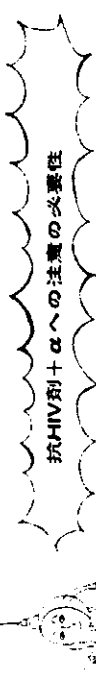
ストレスを完全に回避して生活して生活することは不可能だとしても、自分の健康状態をある程度把握（セルフモニタリング）し、過度のストレスについては可能な範囲で回避することが基本的に重要となります。また、自分を支援してくれる人や機関を増やしていくことにより、一人でストレスを抱え込まないことも大切です。健康を害する対処法を避けることも、健康的な生活を維持していくための大前提となります。

また、精神的に不安定な状態が続く際には、早めに専門機関を受診し、治療や援助を受けることも重要です。



2. HIV剤の効果に影響する薬物使用

薬物の中には、あなたが服用している抗HIV剤の効果を弱めたり、直ちに生命に関わるダメージを与えるものがあります。こうした薬物は、けがや病気の治療のために医師に処方されたり、薬局で購入したりするものにも、またそれ以外の方法で入手するものにも含まれており、十分な注意が必要です。



抗HIV剤に限らず多くの薬物では、同時に2種類以上を使用すると、単独での使用の場合には見られないような、薬理作用（薬の効き目）の増強や減弱が起こることがあります。これを「薬物相互作用」といいます。このいわゆる薬の飲み合わせは、ある薬物が同時に使用した別の薬物の吸収や代謝・排泄その他のメカニズムに、影響を与えることによって起こるといわれています。

相互作用によって吸収の低下や、代謝・排泄が促進されると、抗HIV剤や同時に使用する薬物の体内残留時間の短縮や、血中濃度の低下が起こり、薬理作用を低減させます。つまり、せっかく服薬を継続している抗HIV剤が、効かなくなってしまうことが起こるのです。

また逆に吸収の促進や代謝・排泄の抑制により、抗HIV剤や同時に使用する薬物の体内残留時間の延長や血中濃度の上昇が生じ、薬理作用が増強されます。これにより薬物の過剰摂取と同じ状態となり、心不全などの直ちに命にわたるものを含め、さまざまな危険な症状が現れます。

医療機関等では、こうした薬物の組み合わせや、肝臓や腎臓の代謝機能の個人差に配慮して、薬剤が処方されているはずですから、安心して服薬することができるとしよう。しかし、それらに加えてあなたがご自身の判断で、何らかの薬物を使用される場合には、大きなリスクが生じます。処方されているもの以外に、新たに薬物の使用を検討される際には、主治医に相談されることをお勧めします。特に医療機関や薬局以外で手に入れる薬物については、その成分をはじめとして不明な点が多いため、どのような症状が現れるのかなどその安全性の予測は困難です。市販薬やサプリメントも含め、処方薬以外の薬物について、自分の身体に入れる前に、十分な情報を得てその安全性を確認するこ

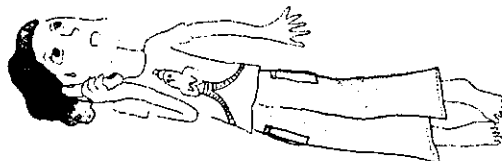
3 服薬管理の安定を妨げる薬物使用

とが必要であると考えられます。

注意すべき症状は？

薬の飲みあわせによっては、薬物の過剰摂取と同じ状態が起こる場合があります。これは「急性中毒症状」といわれます。現れる症状は、併用した薬物によって異なりますが、よく見られるものには次のようなものがあります。

- * 動悸
- * 不整脈
- * 過呼吸
- * 急激に現れる強烈な脱力感
- * 吐き気
- * おう吐
- * もろろと吐く
- * 意識を失う



万一このような症状が現れたら、ためらわずに救命救急サービスを利用してください。命を落とすことになるかもしれないからです。

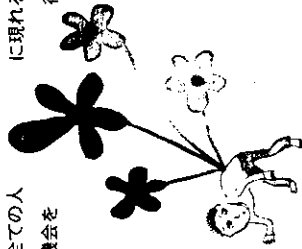


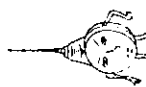
抗HIV剤との飲み合わせがない薬物でも、油断はできません。ある種の薬物は、使用を重ねるうちに使用量や頻度などを自分でコントロールできなくなる「薬物依存」という疾病をもたらします。この病は心身に現れる症状のみならず、多彩な生活上の困難を引き起こすという点が、他の一般的な疾病と比較して特徴的であるといえます。とりわけ抗HIV剤を服用している人にとっては、「服薬管理ができにくくなる」という大きな問題を生じさせます。



「薬物依存の症状＝幻覚、妄想、暴力」とは限りません

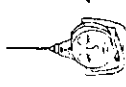
この薬物依存という疾病にかかると、薬物の摂取が生活の最優先事項になってしまいます。このため、家族や友人との人間関係、余暇活動、職業活動などは徐々に劣るようになり、トラブルが増えていき、それらを徐々に失うことになりがちです。また薬物の入手のために多額の負債を負うなどの、経済的困難に陥ることも珍しくありません。もちろん、HIV治療のための通院や安定した服薬なども薬物使用の後回しになり、事実上の治療中断となってしまうでしょう。疾病としての薬物依存のイメージは、「生活をいろいろスババイスとして薬物を使っているうちに、いつの間にか生活全体を薬物に頼ってしまおう」といったものであるといえます。しかし、未だに薬物依存という、粗暴な言動や精神症状を思い浮かべられる方が多く全ての人に現れるわけではなく、結果的に治療・援助の機会を遅れがちのようです。





効きめがはつきりしているものほど注意が必要です

依存を引き起こす薬物は、精神作用物質と呼ばれます。これを使用すると、気分の変化を実感するといわれています。例えば、気分の高揚や興奮、活力が満ちて疲れを感じないというものから、ゆったりとリラックスできるといったものなどがあります。多くの精神作用物質では、使用を中止するとイライラやその他の不快感が現れ（禁断症状）、また、期待する効果（快感）を得るために必要な使用量が増えます（耐性）。このような現象は、漢方薬やビタミン剤などではあまり見られないものです。



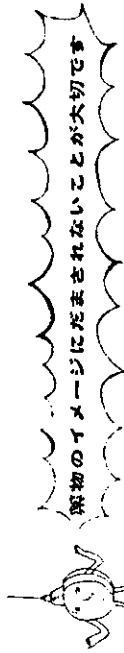
「法的規制がない薬物＝安全な薬物」ではありません

意外かもしれませんが、精神作用物質は、非合法の薬物とは限りません。表1に挙げているのは全て精神作用物質です。

表1 主な精神作用物質と法規制による分類	
A群	あへん モルヒネ 覚せい剤 コカイン マリファナ（大麻） LSD等の幻覚剤 シンナー トルエン
B群	酒類（アルコール） たばこ（ニコチン）
C群	鎮痛剤 睡眠薬 抗不安薬 咳止め薬 かせ薬

まずA群は、現在、国内の法律で使用が禁止されているものです。私たちはこれらに關しては、比較的強い警戒心を抱いています。しかし、未成年者のみ使用が規制されるB群に關しては、「度を越すと体に悪い」といった程度の認識が、まだ一般的なのではないでしょうか。C群にいたっては、薬局や医師の処方によって手に入れる薬であるた

めに安心し、自分で量を増やしたり、使用期間を延ばしたりすることに、危機感をもつ人は多くないと思われまふ。この他近年では、気晴らし、パーティを盛り上げる、セックスの快感を高めるなどの目的で使われる新たな精神作用物質が次々と登場しているようです。これらの多くは、法的規制の対象となるまでは、いわゆる非合法薬物ではありません。しかし、精神作用物質であることには変わりはないのです。抗HV剤との飲み合わせ（相互作用）による、抗HV剤や同時に使用する薬物の極端な効果増強や減弱、そして薬物依存を招く危険は十分にあるといえるでしょう。



薬物のイメージにだまされることが大切です

さまざまなストリートネーム（俗称）で呼ばれる薬物が実際のところ何なのか、つまり何が含まれているのかということについても、十分な関心をもたれるべきでしょう。メタンフェタミンひとつをとっても、覚せい剤、シャブ、スピード、アイスその他、多くの呼び名があります。また使用方法も、注射器による経静脈使用、経口飲用、薬物をあぶっての吸煙などがあります。知り合いが飲んでいて、「疲れがとれる薬」を分けてもらったら、それがいわゆる覚せい剤だったということもあります。

また一部では、性感増進やストレス解消などを目的として薬物が使用されることもありますが、その多くが法的規制の対象となっていないことなどから、安全への関心があまり高くないようです。

こうした、いわゆる合ドラ（合法ドラッグ、脱法ドラッグ）は、「警察に捕まらない＝使用に危険性はない」と誤解されがちなのですが、先述のように、身体に入った後何が起こるかわからない部分が多いためです。加えて、セックスに使用するケースでは特に、薬物の影響でセイファーマーセックスの実践が困難になるということが心配されます。そのことで、セックスパートナーナーへのHV感染の可能性が出てきたり、自分自身もセックスパートナーから他の性感増進薬に感染し、その治療が必要となる場合もあります。ここでは、使用が確認されている次の薬物についての情報を紹介しておきます。

ラッシュなど：(亜硝酸イソプロピル)

吸引することによって血管の周りの筋肉が弛緩し、それによって血管も広がり、ウィルスが体内に侵入しやすくなると言われています。またラッシュ使用後は、数日間免疫機能が低下すると言われています。*12) 液体芳香剤、ビデオヘッドクリナーなどの用途を表示した上で、アダルトシヨップなどで扱われることが多いです。ラッシュの他、ram, D&E, BlueThunder, PRMO, Dragon's Breathその他の商品名で、液体で出回っていることが多いです。

ゴメオ(5-MeO)など：

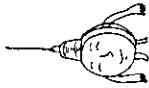
セロトニンの受容体にとりつき、「セロトニン症候群」を引き起こすことがあります。使用後は、吐き気、寒気、冷や汗、ふるえ、などの不快な症状を経、感覚が鈍感になり、抑制がとれてお酒によったような状態になる可能性があると言われています。また、独特の性感があると言われることもあり、感染予防が難しくなるような性行動へつながらることがあります。

例えば、普段はコンドームを使っているのに、ゴメオを使用するセックスではコンドームを使うのがおっくうになったり、普段とは違うより開放的なセックスを試みることもなどが挙げられます。5-meo-dot, DEEP THROAT, X Vrgn, TRUCKY, Void, ハルブアンテ, SEX Hyper, FOXY EX, COME, X feelその他の商品名で、粉末または液体で出回っていることが多いです。

なお東京都では、市中で出回っているいわゆる脱法ドラッグの試験検査を行い、医薬品成分が検出された場合には、製造、輸入、販売にかかわる業者等への指導取締りを実施しています。ラッシュ、ゴメオについて紹介した商品名の製品は、この指導取締りの対象となったものです。この取り組みは、平成17年4月に乗例化される予定です。

このほか、いわゆる脱法ドラッグについては厚生労働省でも、薬事法や麻薬および向精神薬取締法の平成17年度中の改正を目指して検討会が始まっています。

東京都福祉保健局健康安全室薬事監視課 プレス公表概要
<http://www.fukushitoken.metro.tokyo.lg.jp/yakuji/kansu/datudora/p-1611.html>



薬物依存の回復には治療・援助が必要です

薬物依存になった方の中には、それを恥じて誰にも打ち明けたり助けを求めたりせず、自分ひとりで何とか薬物の使用をやめようと試みられる方も多くいらっしゃいます。しかし、薬物依存は疾病ですので、独力での断薬はうまくいくことも数週間から数ヶ月にとどまりがちで、生活全般の安定化に向けて不可欠な、断薬の長期継続は期待できません。

また、意志や根性だけで血圧や血糖値をコントロールできないように、回復すなわち薬物を使用しないで身体的、精神的、社会的に自分が満足できるライフスタイルを作り、維持するには、治療・援助者のサポートが不可欠なのです。自力で止められないことを恥じたり、助けを求めることをためらわれないようにしましょう。

また、薬物依存は慢性の疾病なので、長期にわたって「薬物を使用しないライフスタイル」を維持していく上では、治療・援助とともに、同じ悩みをもつ方々との情報交換や支え合いが役に立つと思われます。



4. 血液を媒体とする感染症



HIV感染後は、体の免疫機能（病気に対する抵抗力）が低下することによって、HIV以外のウイルスにもあらたに感染しやすくなります。他のあらたなウイルスに感染することにより、HIVに関する状態の悪化を引き起こす可能性もあります。そのため、感染後の生活においては、他のあらたなウイルスへの感染を予防していくことが大切です。ウイルスのなかには、すでに感染している人の血液が他の人の血液内に入ることによって感染するものがあります。血液を介して感染するウイルスとしては、主にC型肝炎ウイルスやB型肝炎ウイルスなどがあげられますが、それらは以下のような場合に感染する可能性があります。

- ・C型またはB型肝炎ウイルスが含まれている血液の輸血等を行った場合
- ・C型またはB型肝炎ウイルスに感染している人と注射針・注射器を共用した場合
- ・C型またはB型肝炎ウイルスに感染している人の血液が付着した針を誤って刺した場合
- ・C型またはB型肝炎ウイルスに感染している人の使用した器具を適切な消毒などを行わずにそのまま用いて、入れ墨やピアスをした場合

以上のような感染経路のうち、ここでは医療・その他の目的のために注射器・注射針を自己使用する場合には必要となる予防的方策や注意事項を中心に紹介します。注射器・注射針を自己使用する場合には、さまざまなウイルス（C型肝炎、B型肝炎、A型肝炎、HIVなど）に感染する危険が伴います。感染症にはさまざまなものがあり、深刻な症状をもたらすものも多いため、あらかじめその特徴を理解し、可能な限り予防的方策をとることが必要です。ここでは、血液を介して感染するおそれがあるC型肝炎とB型肝炎について紹介します。

肝炎とは

「肝炎」とは、肝臓が炎症を起こした状態のことをいいます。肝臓は、ちょうど右側の肋骨（ろっこつ）の下部あたりに位置する非常に大きな臓器で、体内の老廃物を取り除くなど、極めて重要な役割を果たしています。肝炎は、この肝臓という臓器に、主にウイルスが感染することによって引き起こされる病気（感染症）です。肝臓に感染する主要なウイルスとしては、C型肝炎ウイルス、B型肝炎ウイルス、A型肝炎ウイルスの3つが挙げられます。その他にD型肝炎ウイルスとE型肝炎ウイルスがありますが、これらはA・B・C型肝炎ウイルスほど一般的に存在するものではありません。肝炎ウイルスは、それぞれ個別のウイルスであって、ある型のウイルスが他の型のウイルスへと変化および進展するものではありません。

【C型肝炎】

C型肝炎ウイルスは1988年に米国で発見されたウイルスで、現在わが国では150万人以上の感染者が存在すると推定されています。そのうち15～69歳までの年齢層の中で100万人近い人々が、このウイルスに感染していることを知らずに生活しているといわれています。

- ・わが国では約150万人以上の人がC型肝炎ウイルスに感染している
- ・C型肝炎ウイルスに感染している人の多くがそのことを自覚していない

〇〇 C型肝炎ウイルスに感染しているかを知らずにはどうすればいいですか？

C型肝炎ウイルスに感染している人の多くは、数年の間、ほとんど自覚的な症状を持ちません。血液検査によって、C型肝炎ウイルスに感染しているかが明らかになります。C型肝炎ウイルスRNA検査では、感染後1～2週間後からC型肝炎ウイルスの検出が可能となります。

- ・血液検査によって、C型肝炎ウイルスに感染しているか知ることができる。

〇〇 C型肝炎ウィルスはどのような悪影響をもたらしますか？

C型肝炎ウィルスに感染していても数年間にわたって症状がない場合が多くあります。早期の自覚症状としては、全身倦怠感、食欲不振、悪心・おう吐などがあり、このうち最も多くの人が経験するのが全身倦怠感です。

長期にわたり自覚症状のない状態が続きますが、この間もウィルスが肝臓に損傷を与え続けており、これにより肝硬変と呼ばれる深刻な状態に進展することがあります。このようなウィルス性の肝硬変は、後に肝細胞癌などさらに深刻な状態へと進展する場合があります。

C型肝炎ウィルスに感染してしまった場合には、肝臓への深刻なダメージを軽減するために、飲酒量を減らすことが重要です。アルコール摂取量が多ければ多いほど、肝硬変に進展しやすくなるからです。

- ・C型肝炎ウィルスに感染したすべての人が必ずしも自覚症状を持つわけではない
- ・C型肝炎ウィルスに感染していてもしばらくの間、普通に生活ができる
- ・C型肝炎ウィルスに感染していると、非常に疲れを感じやすくなる
- ・C型肝炎ウィルスに感染した場合、肝臓へのダメージを軽減するためアルコールの摂取量を減らすことが重要である

C型肝炎の治療

C型肝炎に対する治療法は存在しますが、その効果は人によって異なります。主要な治療法としてインターフェロンやリバビリンという抗ウイルス薬法があります。この治療法には副作用が伴います。

- ・C型肝炎に対する治療法はあるので、感染した場合、速やかに医療機関を受診し、治療をうけること。

[B型肝炎]

B型肝炎はB型肝炎ウィルスの感染によって生じる肝臓の病気です。B型肝炎ウィルスはC型肝炎ウィルスと異なるウィルスであるため、C型肝炎ウィルスに感染している人があらたにB型肝炎ウィルスに感染するなど両方のウィルスに感染する可能性もあります。

〇〇 B型肝炎ウィルスに感染しているかを知るには？

血液検査によって、B型肝炎ウィルスに感染したことがあるか知ることができます。

〇〇 B型肝炎ウィルスはどのような悪影響をもたらしますか？

B型肝炎ウィルスに感染すると、全身倦怠感に引き続き食欲不振・悪心・おう吐などの症状が出現することがあります。これらに引き続いて黄疸が出現することもあります。しかし、このウィルスに感染しても自覚症状のないまま経過する人もいます（不顕性感染）。一般的にはこのウィルスは体内から取り除かれていきませんが、およそ20人に1人の割合でウィルスが体内にとどまり慢性の経過をたどる人がいます。こういった慢性の経過をたどる人に関しては、肝硬変や肝細胞癌などに進展する可能性があります。

- ・B型肝炎ウィルスに感染した人の多くは短期的に出現する症状を経験する
- ・B型肝炎ウィルスに感染した人のうち、およそ20人に1人は長期にわたる慢性的な経過をたどる



B型肝炎には予防接種があります。

一部の国では政府が、注射を用いて薬物を使用する人々に対し、積極的にB型肝炎の予防接種をうけることを奨励しています。また、薬物使用・薬物乱用したうえでのセックスは、コンドームなどを使用しない可能性が高まり、結果としてB型肝炎ウイルスに感染する場合もあります。薬物を使用する人はあらかじめB型肝炎の予防接種をうけておくほうがよいでしょう。

B型肝炎の予防接種（ワクチン）は、6ヵ月間に3回の接種が必要となります。最後の接種の3ヵ月後には、予防接種がきちんと体内で機能しているかを確認する検査を医師に依頼するとよいでしょう。予防接種は安全でほとんどの人に対して効果があります。予防接種による副作用はめったにみられません。

・薬物を使用する人は予めB型肝炎の予防接種をうけておくとうい



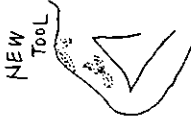
血液による感染をふせぐには・・・

C型およびB型肝炎ウイルスへの感染を防ぐには、それらのウイルスが血液内に入りうる全ての機会を避けることが重要です。また、B型肝炎ウイルスについては、血液だけでなくコンドームを使用しないセックスによっても感染するため、安全なセックスを心がけることも大切です。B型肝炎に関しては予防接種がありますので、あらかじめ予防接種を受けておくこともよいでしょう。他人の血液を自分の血液内に入れたい場合には、生活のなかで以下の点に注意することが重要です。

1. ボディーピアスや入れ墨をする際には、必ずその業者が、新しい用具を使用しているか確認すること

器具の完全な滅菌・消毒をしているといっても、ウイルスが残存していないことを確

かめるのは困難です。常に新しい器具を使用しているか、または使い捨ての器具を使用している業者を探しましょう。



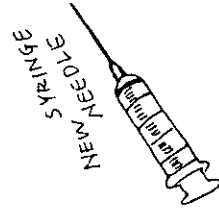
2. 生理中のセックス、および出血をともなう感染の可能性が高いセックスを避けること

B型肝炎ウイルスだけでなく、希にC型肝炎ウイルスもセックスによって感染することがありますので、コンドームを用いた安全なセックスを常に心がけることが重要です。



3. 注射器を自己使用する際には、新しい注射針・注射器を使用し、絶対に他人との共用をさけること

他人との注射針・注射器の共用によって、多くのウイルスに感染する可能性があります。個々人でどんなに工夫して注射針・注射器を滅菌したつもりでも、たとえ清潔に見えたとしても、このようなウイルスが残留している可能性があります。また、注射針・注射器だけでなく、注射の際に用いる他の用具（消毒綿、止血帯、など）の共用によっても感染する可能性があります。



5. 性感染症とHIVに対する影響

長期間にわたってHIVと共に生きていく生活の中で、恋愛やセックスへの関心が高まる人もいます。しかし免疫機能が低下している人は、相手からさまざまなウイルスをもらう可能性が高まります。この章では無防備なセックスによりHIV以外の性感染症に感染した場合、どのようにHIV治療に影響するのかを中心に、HIV以外の主な性感染症についての情報を提供したいと思います。

セックスパートナーや自分の健康を守るために役立ててください。

他の性感染症とHIVへの影響 *8)

HIVに感染している人が、他の性感染症に感染した場合、次のような可能性があることを念頭においてください。

- 1 HIVに感染した人が他の性感染症に感染した場合、HIVに感染していない人よりも重い症状が出たり治療が難しくなることがあります。
- 2 HIVに感染した人が他の性感染症（特に淋病）になった場合、免疫機能がHIVと他の性感染症両方と戦うため、急速にウイルス量が上がる事もあります。ウイルス量の増加はHIVに感染した人の健康に影響を及ぼす可能性があります。
- 3 他の性感染症に感染した場合、HIV感染の症状の進行を早める場合もあります。他の性感染症はHIVの増殖を促進させ、他の性感染症そのものが免疫機能にダメージを与える可能性があります。他の性感染症は、免疫機能を刺激するだけでHIVの増殖を引き起こすこともあります。その免疫反応は免疫細胞の中に潜伏状態のHIVを活性化させ、新しいHIVを作ったり他の細胞に感染させたりします。

出典 *8) Last night I picked up someone, and something!
Acon Australia June 2003 p6

HIVウイルス量と性交時に感染する可能性について *10)

HIVウイルス量に関して：ウイルス量検出以下の検査結果は体内のウイルス量がゼロであるという意味ではありません。

HIV感染がウイルスの量によって感染の可能性が高くなり低くなりたりするという研究結果があります。ウイルス量が多ければ多いほど人に感染させる可能性が高くなり、低ければ低いほど感染させる可能性が低くなるという研究結果があります。しかしながらセックスによるHIV感染の可能性について、ウイルスの量で決めることは以下の理由であまり薦めることは出来ません。

- 1 ウイルス量は血液検査で測ります。セックスをする時は、HIVを含む他の体液、精液、膈分泌液も関係します。血液中と精液、膈分泌液の中にあるウイルス量は違う可能性もあります。他の性感染症にかかっている場合、精液、膈分泌液中のウイルス量が増加する可能性があります。
- 2 ウイルス量は日によってかなり変化があります。血液検査をした時の状態と今が違ふ可能性もあります。もし血液検査の結果を買った時にウイルス量が低かったとしても、それは検査を受けた時点の状態であって、今も低いという保証はありません。
- 3 ウイルス量とは、身体の中に動き回っているウイルスの量を示すもので、細胞の中にあるウイルスの量は反映していません。細胞の中のウイルスはその細胞が死ぬまで細胞の中に留まります。抗HIV剤治療は、新しい細胞がHIV感染をするのを防ぎますが、すでに感染した細胞からHIVを取り除くことは出来ません。HIVに感染した細胞は長い間生き続け、これらの細胞は血液や精液の中に存在することもあり、安全でないセックスによって人に感染する可能性があります。

出典 *10) HIV + Gay Sex Education Strategies Project for the
Australian Federation of AIDS Organization 1998 p11

性感染症の基礎知識

【A型肝炎】

感染経路：不衛生な食べ物、水、食器などの接触によって感染が広がります。感染している人の肛門に指を入れたり、フィストをしたり、リミングをした口に感染している便が入ってきた場合に感染します。又、感染している人とセックスをした後で手を洗わずにそのまま、自分の手を口に入れてたりしても感染します。

症状：症状には、黄疸、体力低下、食欲不振、尿や便の色や質の変化、軽い風邪のような症状、腰痛があると言われています。ほとんどの人が回復し、そして抗体が出来る場合、一度感染すると再び感染することはありません。すでにC型肝炎ウイルスに感染している人がさらにA型肝炎ウイルスに感染した場合、それが引き金となって肝硬変などの深刻な肝障害に進展することがあります。感染しても症状が出ない「不顕性感染」も多く見られます。症状が出てなくても抗体が出来、ウイルスが排除されるまでの間は、便中にウイルスが出現するので感染力があります。症状のない感染者とのアナルセックス、フィスト、リミングで爆発的に感染がひろがることもあり、「流行性肝炎」と呼ばれています。

潜伏期間：感染後2-4週間

感染する可能性を下げるには：A型肝炎に対しての予防ワクチンがあるので医師に相談してください。肛門性交渉、リミング、フィストをする人はワクチンを受けることで感染する可能性を軽減することができます。ワクチンは通常一ヶ月の間をおいて2回接種し、さらに長期の免疫獲得を得るためには数ヶ月後に3回目を追加します。ワクチンを受けない人は、生殖器と直接の接触を防ぐコンドームなどを使うことで、又、セックスの後に手を石鹸で洗うことで、感染の可能性を下げる事が出来ます。

HV感染者への影響の可能性：A型肝炎は肝臓に影響するため、HIVの治療が難しくなります。*10)

【HHV8】

感染症の説明：このヘルペスウイルスがカポジ肉腫と関係があると言われています。

感染経路：HHV8の感染経路はまだ完全に解明されていません。しかしリミング（口と肛門の接触）とカポジ肉腫の発生の危険性が指摘されていることから、口と肛門の接触が感染経路であると考えられています。

HV感染者への影響の可能性：HIV感染が進んだ段階の人にとっては、カポジ肉腫は深刻な病気になるります。

【カンジタ感染症】

感染経路：口の中や生殖器、時に肛門にできます。カンジタは性感染症ではありませんが、セックスにも関係する場合があります。

症状：カビがはえた部分は赤みを帯びた発疹やかゆみがあります。

HV感染者への影響の可能性：HIV感染者は免疫が低下するためカンジタになりやすくなります。HIVに感染している女性は膣カンジタになりやすく、症状が重く治療し難いと言われています。*9)

【クラミジア】

感染経路：感染している人と肛門セックス、膣性交、オーラルセックス、肛門に指を入れたり、フィストをするなどで、膣、口、眼、尿道などの粘膜に感染する可能性があります。

症状：症状が出にくい場合があります。

男性の場合：ペニスから異常分泌液が出たり、頻尿になったり、排尿する際、痛みがあります。

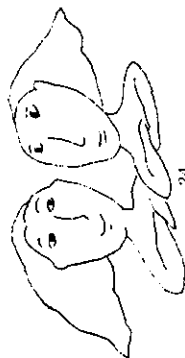
女性の場合：下腹部に痛み、あるいは上腹部に及ぶ激痛を訴え救急外来へ行かなければならない場合があります。

咽頭（喉の奥）感染した場合：慢性の扁桃腺炎や咽頭炎のうちセフェム系薬で治療し、反応しないものの約3分の1にこのようなクラミジアによる咽頭炎が存在します。性器に感染したものに比べ治療に時間がかかると言われています。

放置しておく：男女とも不妊症になる可能性があります。男性は精子の経路に炎症を起こし、精子の経路が詰まって男性不妊症になり、女性は骨盤内感染症を起こします。そして卵管炎となり、卵管が詰まって不妊の原因にもなります。さらにクラミジアが膣内にひろがって肝周囲炎を起こすこともあります。

潜伏期間：感染してから1-3週間

HIV感染者への影響の可能性：骨盤内感染症とHIV感染症をもつ女性はより外科的処置を必要とする膿のかたまりが出来るという研究結果があります。*9)



24

【肛門及び性器に出来る尖形コンジローム】

感染経路：感染している人との性交や、イボに直接触れることから感染する可能性もあります。

症状：性器（陰茎、亀頭、冠状溝、包皮、大小陰唇、膣、膣前庭、子宮頸部）や肛門周囲、肛門内、尿道口などに、いぼ状のちいさい腫瘍（先の尖ったイボ、とさかのようなイボ）が多発します。肛門性交をすることで肛門内の尖形コンジロームが感染する可能性があります。肛門内に感染しトイレに行く場合、不快感がある場合もあります。一般に自覚症状がない場合が多いのですが、大きさやイボが出来た場所によっては痛みが伴うこともあります。

潜伏期間：感染して数週間から8ヶ月（平均2.8ヶ月）

HIV感染者への影響の可能性：HIV感染者の場合尖形コンジロームは治療しにくいと言われています。女性の場合、子宮頸がんになる可能性が高くなるので、年に1-2度子宮頸がんの検査をしましょう。*9)

【サイトメガロウイルス】

感染症の説明：サイトメガロウイルスは普段は深刻な問題を起こしませんが、進行した段階のHIV感染症では命に関わるような症状を起こします。

感染する可能性を下げるには：サイトメガロウイルスは簡単に感染するため、感染予防することはほとんど不可能です。健康な人のほとんどが感染しています。

HIV感染者への影響の可能性：サイトメガロウイルスは、HIV感染の進んだ段階の人（CD4が50以下）には網膜炎、肺炎、膵炎、食道炎を引き起こす可能性があるので、定期的な検査を医師の指示に従って受け予防していく必要があります。

【単純ヘルペス】

感染経路：肛門性交、膣性交やオラルセックスなどで感染することが多いですが、口や生殖器や肛門に出来たヘルペスに直接触れたり、手で触ったりすることも感染します。

症状：生殖器やその周辺の痛みやかゆみが続くことが多く、発熱、風邪のような症状が出ます。38℃以上の発熱が伴うこともあります。排尿時に熱感をともなうこともあります。後にかさぶたとなる痛みを伴う水疱またはただれが生殖器に出来、感染は外陰部だけでなく子宮頸管や膀胱にまで及ぶこともあります。症状が強いため急性型とも言われています。初感染時は外陰部の激痛が起こることもありますが通常再発時の方が症状は軽くなります。稀に髄膜炎や脳炎を引き起こすこともあります。それ以外リンパ節が腫れたり圧痛がみられます。2～3週間で自然治癒しますが、抗ヘルペスウイルス薬を投与すれば1～2週間で治ります。

潜伏期間：2～10日間の潜伏期をおいて比較的突然に発症します。しかし症状が出るまでに数ヶ月から数年かかる場合もあります。

後遺症：ヘルペスは身体の免疫が低下する病気や重大なストレスで再発することがあります。ヘルペスに感染した母親から生まれた子供は脳炎で死亡する危険性や流産や未熟児分娩のリスクも高まります。

HIV感染者への影響の可能性：一度感染すると何度も再発します。特にHIV感染者は再発することが多く、症状も重い場合が多いです。HIV感染者は徹底的な治療を行って完治させることが重要です。生殖器ヘルペスとHIVの両方に感染すると、相互のウイルスが反応しあい増加する速度も速くなるという臨床検査結果があります*10)



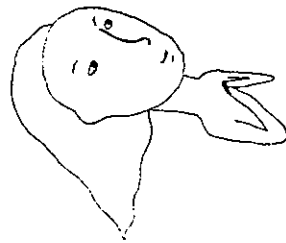
【梅毒】

感染経路：梅毒に感染している人と肛門性交、膣性交、オラルセックス、フィストすることで、感染する可能性があります。皮膚に損傷があると、そこに接触するだけで感染することもあります。症状が出てくる第一期、第二期ではセックスパートナーに感染させてしまう可能性が高くなります。梅毒に感染しても症状が出ない場合も多いです。しかし、この場合も感染させる可能性があります。

症状：最初に症状が出て、やがて自然に消えますが、治療をしないとどんどん進行していきます。梅毒の症状には三段階ありそれぞれ違った症状がでます。

治療しないで放置すると：心臓や主な血管が侵され心不全を起こし、死に至ることもあります。また、脳や脊髄が侵され、麻痺や精神錯乱を起こし死に至ることもあります。妊婦が梅毒に感染していると、胎児に感染し先天性梅毒児となりますが、妊娠初期に診断され治療を受ければ母子感染を予防できます。

HIV感染者への影響の可能性：HIV感染者は梅毒に感染しているかどうかを診断しにくかったり、治療しにくい場合があります。*10) HIV感染者が、梅毒に感染した場合、髄膜炎など通常では見られない重篤な症状があらわれます。免疫機能の低下に伴って再燃することがあるので、定期的な経過観察が必要です。



【バクテリア（細菌）および原虫による腸管感染（Gut Infection）】

細菌性赤痢、サルモネラ症、赤痢アメーバ症、ジアルジア症

感染経路：セックスあるいは食べ物や水から感染します。性的感染は肛門に入れた指、リミング（お尻や肛門をなめる行為）、挿入行為、スカトロ、使ったハイブレッターから少量の感染した便が口の中に入った時に、感染する可能性があります。

症状：下痢、腹痛、たくさんおならが出たり、熱が出たりします。

潜伏期間：感染して数時間後に症状が出る場合もあります。

HIV感染者への影響の可能性：バクテリアにより腸管感染した場合、HIVに感染していない人よりも症状が重い可能性があります。*10)



【B型肝炎】

(B型肝炎は性感染症でもありますが、血液を媒体としても感染します。前述の血液を媒体とする感染症の項目で、B型肝炎については詳しく説明しています。ここではHIV感染者への影響の可能性についてのみ説明します。)

HIV感染者への影響の可能性：B型肝炎がHIVに影響することは経験的に言われていますが、臨床研究はなされていません。しかし肝臓の病気が起きるとHIVの治療は難しくなります。*10)

【淋病】

感染経路：肛門性交、陰性交、オーラルセックス、肛門に指を入れたりフィスト（腕を入れたり）した時、相手が淋菌を持っていた場合簡単に感染します。淋菌に感染した性器や肛門を触った後、自分の性器や肛門や目を触った場合、淋病になる場合もあります。

症状：男女共通の症状：喉の咽頭部に感染している場合は、のどに痛みを感じたり腫れたり、喉が渇きやすくなります。

男性の場合：ペニスからの白色分泌物、時間と共に濃くクリーム状になります。クラミジアに比べて分泌物が多いのが特徴。排尿時に熱感や痛みを感じたり、肛門に痛みやかゆみがあります。尿道炎の症状はクラミジアより強いです。

女性の場合：膈からの分泌物が増加。クラミジアに比べて分泌物が多いのが特徴。又、排尿時に熱感と痛みもみられることもあります。月経異常や腰痛もみられます。女性は症状が軽く、本人が気づかない場合もあります。症状が2-3日で消えても淋菌は体内に潜んでいます。

治療しないで放置すると：

男性の場合：ペニス、次に足の付け根（そけい部）に痛みが広がります。精子の経路が詰まって、男性不妊となります。関節や心臓に病気を起こします。

女性の場合：卵管、卵巣、骨盤に広がり骨盤内炎症疾患を起こすこともあります。

新生児の場合：母親が淋病に感染していると、産道感染によって結膜炎を起こし、失明することがあります。

潜伏期間：3日から3週間です。

HIV感染者への影響の可能性：淋病になると、HIV感染の危険性も高くなるというアメリカの調査結果があります。*10) 骨盤内感染症とHIV感染症を持つ女性はより外科的処置を必要とする腫のかたまりが出来るという研究結果があります。*9)

